

1週間から数か月先の情報の高度化に関する検討会（第1回） 議事概要

1 開催日時及び場所

日時：令和8年2月13日（金）10:00～12:00

場所：気象庁7階 会議室1（ウェブ会議併用）

2 出席者

委員（敬称略、五十音順）

石崎 紀子	国立環境研究所 気候変動適応センター 気候変動影響評価研究室 主任研究員
副座長 今田 由紀子	東京大学 大気海洋研究所 准教授
岡前 憲秀	青森県道路公社 理事長
加藤 大和	日本放送協会 解説委員
岸 栄一郎	東京電力パワーグリッド株式会社 執行役員 系統運用部長、電力気象連絡会 会長
高森 美枝	株式会社ウェザーニューズ 執行役員、サービス運営責任者
座長 中村 尚	東京大学 先端科学技術研究センター シニアリサーチフェロー、名誉教授
西森 基貴	農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門 気候変動適応策研究領域 研究領域長
渡辺 幸彦	大塚製薬株式会社 ニュートラシューティカルズ事業部 ロジスティクス部 部長

気象庁

大気海洋部長、業務課長、気象リスク対策課長、気候変動対策推進室長、予報課長、気候情報課長、異常気象情報センター所長、海洋気象情報室長、気象ビジネス支援企画室長ほか関係官

3 議事

- (1) 開催趣旨
- (2) 1週間から数か月先の情報の現状
- (3) 情報の高度化を進める背景
- (4) 1週間から数か月先の情報に対する社会的ニーズ
- (5) 情報の高度化の方向性

4 委員からの主な意見や質疑

- (1) 1週間から数か月先の情報に対する社会的ニーズ

●電力分野のニーズについて

○太陽光パネル上の残雪は発電量に影響するため重要であり、現在は民間気象会社から

情報を得ている。また、都県単位あるいはより細分化されたエリアの情報があると役立つ。

- 太陽光発電がこれだけ普及すると、ピンポイントより面的な情報の方が有用となるのではないか。
- 定量的な情報の利用状況について、現在は夏季や冬季に2週間おきに「気象庁や資源エネルギー庁等と実施する電力需要に関する情報共有の場」を活用している。
- 「気象庁等との電力需要に関する情報共有の場」は、気象情報の重要な利活用事例だと思う。次回、事務局から内容を説明してほしい。

●製造・物流分野のニーズについて

- 今の季節予報で業務におおよそ対応できているが、梅雨明けのタイミングや35度以上の日が連続するといった急激で極端な変化には対応が難しいこともある。3か月予報としては全体的にうまく活用できていると思うが、局所的にみると課題も多い。
- 一市民としてだけでなく、業務上の活用においてもイメージしやすい情報が有効である。季節の変わり目の変化をつかむとき平年値からの差は有効だが、平年の定義を併せて示してほしい。

●道路分野のニーズについて

- 週間予報は除雪を行う業者も参照しており、実務上活用しやすい。1か月予報も見ているが、より精度を上げていただけると役立つ。

(2) 情報の高度化の方向性

- 地域気候モデルの高解像度化・精度向上が進んでいるが、なおニーズに十分答えきれていないように思う。週間から1か月の時間スケールについても、全球データからダウンスケールリングを行うことにより利活用の可能性が上がると考えられるので、そういったデータの拡充も検討してほしい。
- 短期予報でも雪の予測が難しいことは承知している。一方で、気温の予測だけでも雪対策に活用できる。気温だけでも精度向上に期待したい。
- 長期予報は「当たる・当たらない」という観点よりも、不確実性の幅を示し、備えに資する情報として位置付けることが重要である。また、情報の受け手側、いわば「下流」のニーズから遡って検討していくことが重要であり、ヒアリングやアンケート等による一般利用者の視点の取り込みや、気象庁と民間の役割分担の整理も必要である。2週間先までの情報では、週間天気予報と同じような情報を日別に出していく方向性と理解してよいか（事務局より、その方向性で考えている旨回答）。
- アンサンブルメンバーの増加を踏まえ、閾値を超える確率情報の活用ができると良い。こうした予測データは検証にも必要なので、ぜひ予測データの保存を検討いただきたい。平年値の使い方について、地球温暖化の進行により30年平均は使いづらいことが

増えている。一方で WMO が定めた基準もあり、変更は難しいとも承知しているが、付加的に別の基準による情報提供の工夫も考えられる。

○2週間先までの予報について、5日平均から日別への改善は有益である。1か月先も細分化されるのは良い。各業界から出ているニーズについて、実現までに要する時間や難易度との整理の上、それを共通項目と業界専門項目に仕分けると、気象庁が取り組むべき共通項目のターゲットをどこに置くかを議論できるので、次回提案いただきたい。

○方向性の案については、是非とも検討をお願いしたい。本日議論もあったとおり、リードタイムが延びるほど不確実性が大きくなるが、情報があるのとないのとは全然違うので、気象庁も、民間事業者も、積極的に情報発信を進められたらと思う。また、気象庁からは情報を出した背景を解説いただきたい。解説の中で専門的な部分は民間でフィードバックしていくので、充実に期待したい。

○細分化は賛成。顕著な高温等について、月でまとめると情報がなくなってしまうところ、週別で情報が出るのは良い。平年値と比べた予報については、一般市民にとって平年差が何度と言われてもイメージできない。具体的な数値も示せるとよい。

○誰に向けた情報かを整理する必要がある。予報の振り返りの情報はセミプロには提供してほしい。また、平年値の30年平均やIPCCに近い20年平均でも使いづらい場面があり、農業では技術の進歩も含め、過去数年間を指標とすることもある。

○委員の皆さんのご意見を伺うと、全体としては方向性に賛成との認識が示された。予報の振り返りは異常気象分析検討会で充実すべきと考えており、実施していきたい。地球温暖化の影響で、高温側の予測では高い確率が出やすくなっている状況を踏まえ、近年の状況に比べてどうかといった、記憶に訴えるような情報の出し方も大事。また、時間方向の改善については、急に気温が変化するなど変動度の情報やアンサンブルの活用等、より時間的に細かな情報についても、解説も含めて発信することが重要。空間方向の情報改善については、ダウンスケーリングにより面的な情報を充実させて、そこからピンポイントの情報を得られるようにすると良い。

以上